

令和4年度 徳島市不動中学校総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
1 豊かな心を育む人権教育の推進	①目的意識・自尊感情を高める教育活動の推進 ②生徒理解と相談体制の充実 ③人権教育の推進	評価指標	評価指標の達成度	総合評定 (評定) A (所見) 生徒が、夢や目標を持ち充実した学校生活が送れるようになってきている。また、PBSにより、生徒の自尊感情も少しずつ高まってきている。学校生活の中で、大きな声で挨拶をしたり、友達を助けたり、お互いを大切にしようとする生徒が増えてきている。	・生徒の自尊感情や自己肯定感をさらに高めていくために、スクールワイドPBSに取り組むとともに、生徒が主体的に活動する場を増やし「できる」「できた」を実感することができる教育活動を行う。 ・日頃から、全教職員が積極的に生徒と関わり、生徒理解に努める。また、スクールカウンセラーを始め、様々な関係機関と連携して教育相談体制を整えていく。	
		生徒アンケートにおいて	①-1 「学校生活は楽しい」80%以上 ①-2 「夢や目標を持って学校生活を送っている」80%以上 ② 「困ったときに相談できる先生がいる」70%以上 ③ 「いじめや差別がなく周りの友だちを思いやっている」80%以上			①-1 84%で目標を達成することができた。(昨年度73%) ①-2 80%で目標を達成することができた。(昨年度73%) ② 79%で目標を達成することができた。(昨年度66%) ③ 87%で目標を達成することができた。(昨年度85%)
		活動計画	① 学校行事等で体験的活動を通じて、集団の中で自ら考え行動する機会をつくる。 ②-1 自分を認められるような生徒への声かけを教員が心がける。 ②-2 教育相談体制を整え、いじめ等について相談しやすい環境をつくる。 ③ 人権教育主事を中心に、人権教育を実践する。			① コロナ禍で活動の制限はあったが、活動の方法を工夫して全ての行事、体験活動を実施し、生徒が活躍できる場面を作った。 ②-1 PBS(ポジティブな行動支援)を努力事項に掲げ、全教職員で褒めて伸ばす指導に取り組んだ。 ②-2 スクールカウンセラーを活用し、全校生徒対象に「心の健康相談」を1人2回、「心の健康づくり巡回相談」を2月に実施した。 ③ 機会があるごとに、人権教育主事が中心となり研修を実施した。
2 確かな学力の育成	①「わかる授業」の実践 ②基礎的・基本的な知識・技能の定着と家庭学習の定着	評価指標	評価指標の達成度	総合評定 (評定) B (所見) ICT機器の有効に活用して授業改善を行い、わかりやすい授業の実践ができつつある。また「わかりやすい授業を行っている」と、87%の生徒が答えているが、家庭学習の重要性を理解させ、しっかりと取り組ませることが課題である。	・学力向上検討委員会で、本校の課題をふまえた具体的なプランを作成して教職員全体で共有し、推進していく。 ・教科や学年の枠を超えた授業研修の実施や、ICT機器を有効に活用した生徒が主体的に取り組む授業の実践、キャリア教育等を推進し、生徒が将来の夢や目標を持てるようになる。 ・保護者は、家庭において子どもの教育にどのようなことが必要なのか分からないのかもしれない。保護者に対する啓発を行うために、学園で保護者向けの研修の機会を設けてほしい。 ・保護者が研修できる機会を設定する。	
		生徒アンケートにおいて	① 「関心や意欲、目標を持って授業に参加している」70%以上 ②-1 「得意な教科があり苦手教科の克服に取り組んでいる」70%以上 ②-2 「家庭学習は大切である」95%以上			① 80%で目標を達成することができた。(昨年度65%) ②-1 75%で目標を達成することができた。(昨年度84%) ②-2 75%で達成することができなかった。(昨年度96%)
		活動計画	① めあての提示し、振り返りの場面を設定するとともにICT機器を効果的に活用する。 ②-1 モジュール学習等「朝の学習の時間」を活用し、基礎学力の育成を目指す。 ②-2 「家庭学習の手引き」の活用等、家庭学習の充実が図れるような方法を提示する。			① 表示カードを作成し、全教科でめあての掲示を行うようにした。また、授業内容に応じてICT機器を有効に活用した。 ②-1 教科ごとに、授業内容の反復練習を行い、基礎学力の定着を図った。 ②-2 「学習の手引き」を活用し、家庭学習の重要性や方法について生徒に示し、内容についての確認を行う。
3 家庭・地域との連携	①積極的な情報発信 ②地域の人材と教育力を活用した教育活動の充実	評価指標	評価指標の達成度	総合評定 (評定) A (所見) 生徒と関わり、気づきを教職員と共有するとともに、家庭との連絡も密にとることにより、保護者との連携が強化できた。また、ホームページによる学校からの情報発信により、開かれた学校づくりに努めた。	・保護者・地域への情報発信の一つとして引き続きホームページの更新回数を増やしたり内容の充実を図ったりするとともに、連絡メールも情報発信ツールとして活用する。 ・保護者や地域住民が教育活動を参観する機会を積極的に設け、連携体制の強化を図る。	
		保護者アンケートにおいて	① 「ホームページや学年だより、家庭連絡等を通じて学校の様子がよくわかる」80%以上 ② 「保護者と学校、地域の連携や協力体制が進んでいる」80%以上			① 86%で目標を達成することができた。(昨年度項目なし) ② 「保護者との連携」86%(昨年度67%)、「地域との連携」100%(昨年度67%)で目標を達成することができた。
		活動計画	① ホームページや学年だより等、教育活動の様子を積極的に発信する。 ② 不動学園や保護者、地域の方々と連携した取組を推進するとともに、地域行事等に積極的に参加する。			① ホームページは毎日更新し、必要に応じてまちこみメールを使用した。また、定期的な学年便り等を積極的に発信した。 ② 地域行事に全教員が参加し、保護者や地域の方のご意見を検討したり、取り入れたりすることで円滑な教育活動の実践に努めた。
4 教職員のワークライフバランス確立	①業務内容の精選と、教職員の意識改革 ②保護者や地域の理解と協力を得る	評価指標	評価指標の達成度	総合評定 (評定) B (所見) 教職員にとって働きやすい職場環境となっているが、保護者・地域への「働き方の改善」についての広報活動が不十分であった。	・コロナ禍ではあったが、地域行事を実施することができ、学園と地域、保護者とのつながりができて良かった。 ・教職員にとって働きやすい環境となるよう、保護者、地域の理解をもっと進めていかなければいけない。	
		教職員アンケートにおいて	① 「やりがいを持って働くことができた」「年休等が取りやすい」80%以上 ② 「働き方の改善に対する保護者や地域の理解が進んでいる」70%以上			① いずれも100%で、目標を達成することができた。(昨年度89%) ② 46%で目標を達成することができなかった。(昨年度43%)
		活動計画	① 健康の保持や自己研鑽の時間の確保について啓発する。 ② ホームページ等で保護者や地域に情報を発信する。			① 教職員が積極的に休息がとれるように、日頃から声掛けをした。研修会についても、回覧や職員会で周知し、教職員に啓発した。 ② 活動の様子や働き方改革について、ホームページで発信した。